

コード	501034701
記入日:	H22.6.10

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	入江覚生

事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	海洋青少年の家管理運営事業
----------	---------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	1
施策コード	501	施策名称	学校教育の充実	項コード	1
基本事業コード	50103	基本事業名称	教育内容の充実	目コード	1
事務事業コード	5010347	事務事業名称	海洋青少年の家特別会計事業費	細目コード	
関連計画			法令・条例規則等	長崎県立青少年教育施設に関する20年度協定書	

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1)	児童生徒及び住民	(対象指標1)	23,719人(H21.4.1現在)				
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	①適正な維持管理を行い、施設の運営を行った。保守点検回数21回。②青少年の育成を目指して、事業を行った。開催回数9回。開催日数9日。③児童生徒の宿泊訓練として施設利用や体験活動の指導を行った。	*****	*****	*****	実績(21回)÷計画(21回)	*****	
		保守点検回数	21回	100%		平成21年度	
		(達成率分析)	計画どおり実施した。				
		*****	*****	*****	9件の計画÷実施件数9件	*****	
		主催事業開催数	9件	100%		平成21年度	
		(達成率分析)	計画どおり実施した。				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
・家庭や学校生活では体験することが出来ない集団宿泊生活、野外体験活動、物づくり体験活動を通じて規律ある生活や、協調融和の社会的性の涵養、創意工夫し自ら実行する力や思いやりや生きる力を身につけさせる。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		*****	*****	*****	開館した日数÷開館すべき日数	*****	
		①	開館した日数	359日	100%		平成21年度
		(達成率分析)	計画どおり実施できた。				
	*****	*****	*****	利用者数4,780人÷計画数4,900人	*****		
		利用者数	4,780人	97%		平成21年度	
		(達成率分析)	前年度を上回る計画を立て達成できた。体験活動のメニューの工夫等を図り更に利用促進に努めたい。				

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 回	75	75	54	21	21					
	② 件	39	39	30	9	9					
成果指標	① 件	359	359	359	359	359					
	② 人	24,052	23,932	19,152	4,900	4,780					
総事業費C(A+B)		千円	104,989	104,856	85,775	19,214	19,081				
直接事業費A		千円	69,989	69,856	57,775	12,214	12,081				
人件費B		千円	35,000	35,000	28,000	7,000	7,000				
内訳	従事職員数	人	5.0	5.0	4.0	1.0	1.0				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	4,154	4,154	4,154						
	起債	千円									
	その他	千円	11,320	12,414	3,664	7,656	8,750				
一般財源		千円	89,515	88,288	77,957	11,558	10,331				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 県内唯一の海洋型青少年施設、また五島にも青少年施設が無いことから是非必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 どの時代にも青少年に対する体験施設は必要であり、体験を通じた健全育成は欠くことが出来ない。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由 青少年の健全育成が目的であり、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由 事業を通じての子どもの成長等もあり学校等から多くの事業を期待されている。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由 秋、冬の利用者の拡大で今以上の成果が見込める。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由 青少年の健全育成に支障がある。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由 唯一の海洋型青少年施設であり、ここでしか体験できないものがあり、整理統合は出来ません。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 活動に必要な経費計上であり、これ以上の削減は出来ない。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 職員も1人であり、その他の賃金も運営最低限の人数でありこれ以上は削減できない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由 県との指定管理者協定書に沿っており、妥当である。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ見直す必要はない。
		有効性	秋・冬場の利用者を増やすことで有効性を上げることが出来る。
		効率性	現在のところ計画を見直す必要はない。
	課題に向けた改善策	海洋体験ができない期間(10月～3月)の施設の効果的な利用に向けての事業立案を行う。	
	2次評価	妥当性	施設の設立趣旨に則り適切な施設運営に努めること。
		有効性	冬季の利用を促すとより成果を挙げることが可能であるが、新規企画を検討、協議しながら進めていくこと。
効率性		利用者の使用に支障がないよう施設管理を行うとともに、経費の節減に努めること。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。